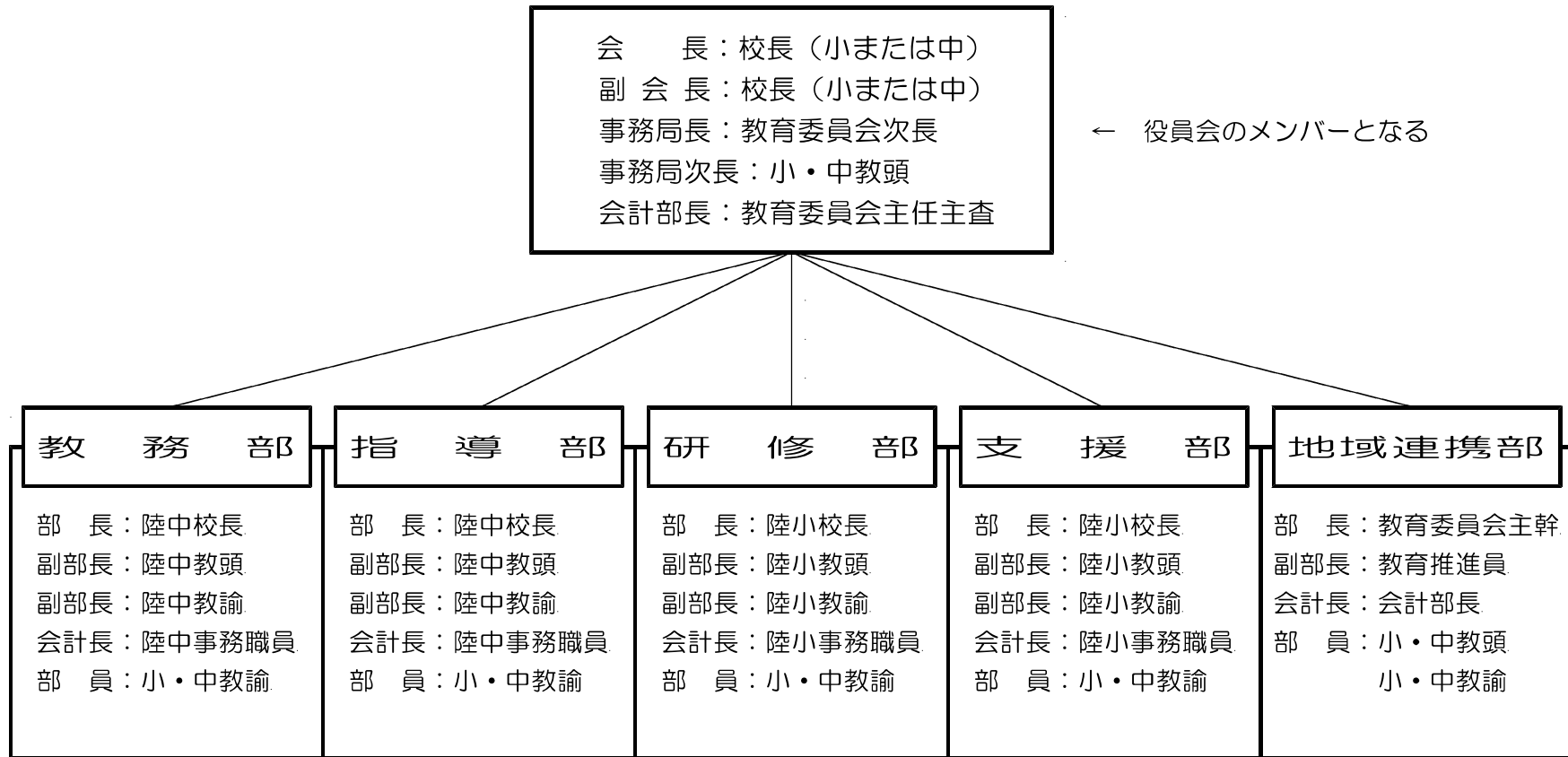


陸別町小中一貫教委推進委員会 運営組織図



※ 監査には、教務部副部長（教諭）、研修部副部長（教諭）を充てる。

陸別町立陸別小学校・陸別中学校 グランドデザイン

令和8年度共通目標

誰もが通いたい学校、働きたい学校

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

☆新しい時代に必要となる資質・能力

- ・個別最適な学びと協働的な学びによる学力の定着
- ・自立した学習者の育成
- ・小中一貫した教育課程の実施・改善
- ・PDCA サイクルの確立

☆豊かな人間性

- ・自己有用感を高める指導の充実
- ・発達支持的生徒指導の推進
- ・読書環境の整備と本に親しむ指導の充実
- ・個々の児童生徒に応じた支援

☆健康でたくましい体

- ・ヘルスリテラシーを高める指導
- ・新体力テストの活用
- ・学校給食を活用した食育の推進

学びの機会を保障し
質を高める環境の確立

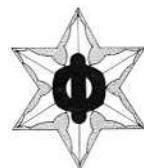
☆安心して過ごせる居場所

- ・アウトリーチ型相談体制の整備
- ・不登校の未然防止
- ・いじめの問題への組織的対応
- ・危機回避の指導の充実

☆働きがいのある職場

- ・心理的安全性の確保
- ・ICTを活用した校務効率化の推進
- ・自分事として考える服務規律保持の取組
- ・教員の主体的な学びの促進

陸別の子は
陸別で育てる
～保小中連携の
持続的な推進



家庭・地域と歩む
持続可能な教育の実現

☆家庭や地域との連携

- ・タブレットを活用した家庭学習
- ・家庭・地域との情報共有
- ・学校経営状況の公表
- ・CSと地域学校協働活動の推進

☆未来の陸別を担う人材の育成

- ・「りくべつ学」の推進
- ・地域諸行事への主体的な参加
- ・キャリア教育の充実

R8 陸別町小中一貫教育推進委員会 業務カレンダー

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
	・ 総会 ※各部詳細計画	・ 第 1 回役員会 「各部詳細確認」			・ 第 2 回役員会 「各部進捗」			町教育研究大会 ※各部中間反省	・ 第 3 回役員会 「中間反省」		※各部反省	・ 第 4 回役員会 「総会に向けて」
教 務 部	・ 第 1 回部会		・ 乗入授業 体力テスト中⇒小 ・ 放課後学習①	・ 夏休みサポート ・ 漢検① ・ 数検①	・ 乗入授業 音楽 中⇒小 ・ 放課後学習②	・ 乗入授業 音楽 中⇒小 ・ 放課後学習③	・ 乗入授業 音楽 中⇒小 ・ 放課後学習④		・ 放課後学習⑤ ・ 冬休みサポート	・ 乗入授業 スケート中⇒小 ・ 英検③	・ 英語科授業交流 ・ 放課後学習⑥ ・ 漢検③	
指 導 部	・ 第 1 回部会 ・ 野外奉仕活動	・ 巡視		・ 巡視 ・ 生活プラン反省		・ 巡視		・ 互助会レク ・ 巡視	・ いじめ撲滅集会 ・ 生活プラン反省	・ 巡視	・ 体験入学	・ 巡視 ・ 生活プラン反省
研 修 部	・ 第 1 回部会 ・ 合同研修①	・ 第 2 回部会 ・ 合同研修②		・ 第 3 回部会 ・ 合同研修③ ・ 十勝教育研究所員研修会		・ 合同研修④	・ 合同研修⑤	・ 町研 (合同研修⑦) ・ 合同研修⑥	・ 第 4 回部会 ・ 合同研修⑧	・ 合同研修⑨ ・ 十勝教育研究所研究発表大会		・ 第 5 回部会
支 援 部	・ 第 1 回部会			・ 教育相談① ・ 十特支教育研究				・ 教育相談② ・ 町文化祭作品展示	文集「陸別の子」 提案→ 原稿作成→ PDF化・完成			
	支援を要する児童生徒の情報共有											
	キャリアパスポート											
連 携 部		C S ①					C S ②					C S ③

令和7年度 陸別町学校運営協議会「学校関係者評価」集計報告

1. 調査概要

- ・評価対象： 令和7年度 陸別町内小・中学校の教育活動および学校運営
- ・回答者： 第3回学校運営協議会参加者 11名
- ・評価項目： ① 目指す学校像「誰もが通いたい学校」の実現状況
② 学校による自己評価の適切性
③ 自己評価を踏まえた今後の改善方策の妥当性

2. 評価結果と主な意見

【観点①】 目指す学校像「誰もが通いたい学校」の実現について

学校の取組は概ね「実現に向けたものになっている」と肯定的に受け止められている。特に外部講師の活用や、児童生徒の興味を引く授業・行事の工夫が評価された。

○主な意見・評価

- ・外部講師や専門家を招いた活動は、生徒の興味関心を高める上で非常に意義深い。
- ・行事だけでなく、日頃の授業（家庭科等）を楽しくする工夫が今年度増えており、継続を期待する。
- ・「りくべつ学」等の継続事業についても、慣例化せず毎年改善・見直しを行う姿勢が重要である。

○具体的提案・アイデア

- ・心の教育： いじめ防止について、生徒会の活動に加え、心理学（集団心理等）の専門講義を取り入れてはどうか。
- ・家庭学習支援： 著作権に配慮した上で、8～12分程度の学習ポイント動画をQRコードで配布・配信する。
- ・受援力の育成： 孤立を防ぐため、「他人に頼る」「他人のやり方を参考にする」スキルの指導を強化する。

【観点②】学校の自己評価の適切性について

自己評価については、「自らを厳しく分析している」「適切である」との評価がなされた。

○主な意見・評価

- ・小中学校で共通の課題が挙がっており、実態を的確に把握できている。
- ・教員・保護者・児童生徒の間で「理想とするゴール」や「質問の捉え方」に差があることを前提に、多角的な視点で分析が行われている。

○改善への要望

- ・評価結果の表示形式（グラフ等）を小中学校で統一することで、より比較・検討がしやすくなる（小学校の形式が参照しやすいとの声あり）。

【観点③】今後の改善方策の適切性について

提示された改善策は概ね妥当とされたが、特に「相談体制」と「学習習慣」の二点において具体的なアイデアが出された。

○主な意見・評価

- ・相談体制の再構築： 「誰にも相談できない」と答えた層への対策として、希望制だけでなく、全教員が順番で話を聞く「ローテーション制」等の検討。
- ・学習の質の向上： 意識の乖離がある「学習量」については、単なる時間の確保ではなく「どう学習すべきか」の具体的な指導が必要。
- ・ICTの活用： タブレットを「文房具」かつ「心の支え」と捉え、プレゼンソフト等を日常的に使いこなせる環境づくり。
- ・委員が子どもの様子を直接確認するために、年1回は授業参観日に合わせた協議会開催を検討すべき（例：R8小学校、R9中学校など）。
- ・ヘルスリテラシー向上や自己有用感の醸成に向け、学校・家庭・地域の役割分担を再整理する必要がある。

3. 総括

本年度の評価を通じて、学校の創意工夫は委員から高く信頼されていることが確認された。今後は、ICT活用や相談体制の充実といった「質の向上」に加え、学校運営協議会がより現場に近い視点で関与する仕組みづくりが求められている。

1 北海道教育の目指す姿（北海道教育ビジョン）

基本理念

「自立」「共生」

2 十勝教育の目指す姿（十勝管内教育推進の重点）

誰もが自分らしく輝き続ける十勝教育の推進

～ウェルビーイングの向上を目指して～

- (1) 子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進
- (2) 学びの機会を保障し質を高める環境の確立
- (3) 地域と歩む持続可能な教育の実現

3 陸別町教育の目指す姿

～「陸別の子は陸別で育てる」～ 地域とともにある学校づくり

- (1) 家庭は温かく
- (2) 学校は楽しく
- (3) 地域は明るく

4 陸別小学校の教育目標（平成31年2月改訂）

～「かしこく」「やさしく」「たくましく」～

5 目指す学校像

誰もが通いたい学校、働きたい学校

6 目指す児童像

(1) かしこく

- ・ 既習の知識・技能を活用する（知・技）
- ・ 根拠を明確にして、自分の考えを説明する（思・判・表）
- ・ 学び方を見通し、選択する（学・人）

(2) やさしく

- ・ 自分のよさを知り、自分を大切にすること（知・技）
- ・ 友達のよさを見つけ、認め合う（思・判・表）
- ・ 思いやりをもって人に接する（学・人）

(3) たくましく

- ・ 基本的な生活習慣を身に付けている（知・技）
- ・ 健康・安全に向け、適切に行動する（思・判・表）
- ・ よりよい生活を自主的に形成する（学・人）

7 本年度の経営の重点

(1) 「陸別の子は陸別で育てる」（保小中連携の持続的な推進）

- ・ スタートカリキュラムの充実による、保小の円滑な接続
- ・ 陸別町小中一貫教育推進委員会による小中一貫教育の推進

(2) 子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

① 新しい時代に必要となる資質・能力をはぐくむ

- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による学力の定着
- ・ 自立した学習者の育成
- ・ 小中一貫した教育課程の実施・改善
- ・ 客観的なデータを基にしたショートスパンでのPDCAサイクルの確立

★ 評価

評価項目	目標値
・全国学力・学習状況調査の平均正答率	各教科全国平均以上
・チャレンジテストの平均正答率	各教科全道平均以上
・チャレンジテストの正答率下位層の児童	各教科全道平均以下

② 豊かな人間性をはぐくむ

- ・ 自己有用感を高める指導の充実
- ・ 全校体制による組織的な発達支持的生徒指導の推進
- ・ 読書環境の整備と本に親しむ指導の充実
- ・ 個々の児童の困難さに応じた指導内容や指導方法、支援体制の工夫

★ 評価

評価項目	目標値
・「自分にはいいところがある」と回答する児童	100%
・自ら学習計画を立て、振り返ることができる児童	100%

③ 健康でたくましい体をつくる

- ・ 健康な生活に関心をもち、ヘルスリテラシーを高める指導の充実
- ・ 新体力テスト結果の活用・分析による体力向上の取組の充実
- ・ 学校給食、食育掲示板を活用した食育の推進

★ 評価

評価項目	目標値
・「規則正しい生活を心掛けている」と回答する児童・保護者	100%

(3) 学びの機会を保障し質を高める環境の確立

① 安心して過ごせる居場所をつくる

- ・ 全教職員によるアウトリーチ型相談体制の整備
- ・ 児童一人一人に寄り添うことによる不登校の未然防止、早期発見・早期対応
- ・ 法に基づくいじめの問題の未然防止、積極的な認知、組織的な対応
- ・ 避難訓練、安全教育等を通じた危機回避の指導の充実

★評価

評価項目	目標値
・欠席日数年間 30 日以上の児童	0%
・「困ったことを先生に相談しやすい」と回答する児童	100%

② 専門性を向上し、働きがいのある職場づくり

- ・ 心理的安全性を確保し、情報共有しやすい職員室の雰囲気づくり
- ・ ICTの活用による校務効率化の推進
- ・ 自分事として考える服務規律保持の取組
- ・ 小中合同研修を核とした教員の主体的な学びの促進

★評価

評価項目	目標値
・「働きやすい職場」と回答する教職員	100%
・「合同研修が資質・能力の向上につながっている」と回答する教職員	100%

(4) 家庭・地域と歩む持続可能な教育の実現

① 家庭や地域と連携して子どもの学びを支える

- ・ 持ち帰りタブレットを活用した家庭学習の促進
- ・ 学校便りや町広報誌、新聞等の活用による家庭、地域との教育活動の共有
- ・ 学校評価による学校経営状況の公表
- ・ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

★評価

評価項目	目標値
・タブレットを活用し、主体的に家庭学習を継続している児童	100%

② ふるさと陸別への愛着と未来を担う人材を育成する

- ・ 「りくべつ学」を推進する教育課程の実施・検証・改善
- ・ 育てたい資質・能力との関連を明確にした地域諸行事への参加
- ・ 自己を理解し、将来を前向きに考えるキャリア教育の充実

「相談体制」と「学習習慣」の充実に向けて

～「令和7年度 陸別町学校運営協議会 学校関係者評価」を踏まえた改善方策案～

陸別町立陸別小学校

1 「相談体制」の充実に向けて

～課題～

- 「誰にも相談できない」と答えた層への対策
- 自己有用感の高まりを実感できる取組の推進

～方策①～ 教育相談体制の充実

- 悩みや困りごとを抱え込まない風土醸成
 - ・ 各児童の状況の確実な把握と職員間共有
(日常観察、個別面談の実施、各種アンケート結果の活用)
(職員間の「報告・連絡・相談」と「確認・連絡・報告」の徹底)
- 健康観察におけるタブレット端末の活用
 - ・ 声を出しにくい時でもサインを発せられる「心の支え」の一助として

～方策②～ 「大切にしたい『三つのこと』」を軸とする学校づくり

- 「三つのこと」の浸透化・価値化・行動化
 - 心理的安全性が確保された学校
 - 「誰もが通いたい・働きたい」

2 「学習習慣」の充実に向けて

～課題～

- 学習の質的向上に向けた「どう学習すべきか」の具体的な指導

～方策①～ 家庭学習支援

- 「どう学ぶか」を誘う「家庭学習」ガイド資料の活用
- 「自主学習ノート」の好事例の展示・紹介による全体への汎化・普及

～方策②～ 「自立した学習者」の育成に向けた授業改善の取組

- 陸別小中学校一体による授業改善研究の推進

ました

だれ かよ がっこう はたら がっこう
誰もが通いたい学校 働きたい学校

あいて たい いや おも
相手に対して 嫌な思いをさせない

陸別小学校 令和8年度 みんなで創る「最高の学校」



自分と友達の
「キラリ」を大切に！
自分の良さを見つけて好きになり、
友達の良さも認め合いましょう。



大切にしたい「三つのこと」

「失敗」はパワーの種！
失敗は成功へのステップです。
「もう一回」の気持ちで挑戦しましょう。



「助けて」と「どうしたの？」
で支え合おう

一人で抱え込まず、困っている友達には
勇気を持って声をかけましょう。



自分の力と仲間の力を信じて進む

未来をたくましく生きるため、自分と友達の可能性を信じましょう。



私たちの目指す「最高の学校」

全員が「ここでよかった」と思える場所

児童も先生も、心から「通いたい・働きたい」と思える学校を目指します。



みんなの力を合わせて創る

いい学校は、児童と先生が共に力を合わせて創っていくものです。

家庭学習のすすめ

～学校と家庭の連携で「学ぶ力」を育てる～



学習時間の目安は

「学年×10分+α」

学習する時間帯を決めましょう。
テレビやゲーム、スマホのスイッチ
を切る習慣をつけます。



正しい生活習慣が
学力を支える

早寝・早起き・朝ごはん
あいさつ・返事を大切にしましょう。

家庭で支える
『学びの土台』

家庭学習は、低学年は週1日以上、中
学年は週2日以上、高学年は週3日以
上行う予定です。

宿題や家庭学習の出し方においては、
各学年の実態に応じて、担任からお知
らせいたします。



「ほめて、はげます」
心のサポート

がんばっているお子さん
にはげましの言葉をかけま
しょう。

家庭で行う学習は

『宿題』と『家庭学習』があります。

宿題

ステップ①めあて

「今日の学習で付けたい力」を自分
の言葉でノートに書きます。

ステップ②学習

自分のめあてに合った方法を選んで
挑戦します。

ステップ③振り返り

学習を終えたら、次の2つの視点で自
分の学びを分析します。

家庭学習のすすめ
パンフレット



陸別中学校
家庭学習の手引き



中学年 学びのカタログ

作戦を立てて分析！中学校へつながる
「自分だけの武器」をみがこう！

国語

意味調べ・検索の術

→タブレットで言葉の意味を調べ、ノートに文を作る

タイピング・スターの術

→タイピング練習を行い、素早く入力する基礎を作る

きもちの図解術

→登場人物の心情変化をベン図やチャートで整理する

要約の術

→お話を3つのポイントに要約し、自分の言葉で紹介する

算数

計算・反復の術

→計算ドリルを使い、正確さとスピードを意識して練習する

さかのぼり・リベンジ

→現在の学習と関係の深い「前の学年の弱点」を克服する

グラフ・クリエイター

→気温や勉強時間を表やグラフにして変化を分析する

算数マーケットの術

→つまづいた問題を、「わかる」ようにした過程を説明する

その他

しらべ学習の術

→図鑑やネットを使い、興味のあることを詳しく書く

予習ムービー・ミッション

→先生が共有した動画を見て、質問をメモして学校へ行く

アンケート調査隊

→アンケートを使って意見を集め、結果を分析する

マイ・スタディ・デザイン

→自分の弱点や興味に合わせて、方法を工夫して、実行する

高学年 学びのカタログ

戦略的に学びをデザイン！自分をアップデート
して中学校へ羽ばたこう！

国語

タイピング・プロの術

→ブラインドタッチを目指し、素早く入力できる力をつける

要約・骨子作成の術

→文章を100文字程度に要約し、伝えたい「核」を抽出する

プレゼン・マーケット術

→スライドの技術を使い、友達が真似したくなる資料を作る

ニュース・コメンテーター

→ニュースを調べ、自分の意見と根拠をノートにまとめる

算数

ケアレスミス分析術

→間違えを理由ごとに分類し、記録、分析をする

中学校さきどり・さかのぼり

→学年の枠を超え、自分に必要なレベルの学習を選ぶ

予想と照合の術

→学習前に「予想正答率」を書き、結果と比べて分析する

セルフ・メーター

→スマイルドリルを活用し、次に学習すべきことを検討する

その他

反転学習・プレスタディ

→授業の動画を事前に見て、質問を準備して授業に臨む

マイプラン学習

→1週間の家庭学習を、自分で計画・実行・振り返りする

中学生への架け橋術

→パンフレットのQRから中学校の
「学習の手引き」を読み、挑戦する



家庭学習のすすめ

毎日の『土台』と自分だけの『学び』。
大きく育て、未来への一歩。



家庭での学習

お子様が家庭で行う学習には、「宿題」と「家庭学習」の2つの役割があります。

ア：宿題

学習したことを定着させるためのものです。

- 授業の内容を振り返る問題、漢字・計算の繰り返し練習などを行います。
- 基礎・基本をしっかり身につけ、「わかる！」という自信につなげます。

イ：家庭学習

興味や力に合わせて、学ぶ楽しさを広げます。

- もっと知りたいことや、得意なこと、挑戦したいことを選んで取り組みます。
- 「学ぶことって楽しい！」という気持ちを育むとともに、学期の終わりには「どれくらいできるようになったかな？」と自分の成長を振り返る機会も大切にします。

保護者の皆様へ

これからの家庭学習で最も大切なのは、保護者の皆様が「指導者」ではなく「伴走者」になることです。子どもが自ら学び方を選択し、学んでいくプロセスを面白がり、温かく見守ることで、家庭が「心理的安全性の高い挑戦の場」になります。

学習前	テレビやスマホ、ネットを控え、集中できる環境を確保してから学習することで、適切な学習習慣が身につきます。
学習中	がんばっているお子様にはげましの言葉をかけましょう。結果ではなく、プロセスを認めてあげてください。
学習後	学習した内容をお子様にご教授してもらったり、学び方について一緒に振り返りをしてあげてください。

家庭学習のすすめ方

陸別小のグランドデザインが目指す「自立した学習者」を育むための、毎日の3ステップです。

ステップ①めあて

学習を始める前に、「今日の学習で付けたい力」を自分の言葉でノートに書きます。

「ドリルを1ページやる」といった作業の目標ではなく、「筆算の仕方をマスターする」といった「身につけたい力」を意識します。



ステップ②学習

パンフレットの学年ごとの学習例を参考に、自分のめあてに合った方法を選んで挑戦します。

【例えば、こんな学習】

- ア：ドリル攻略型：タブレットでドリルを見てノートでじっくり解く。
イ：探究型：タブレットで調べたことを自分でノートにまとめる。
ウ：観察・発見型：撮影した虫や植物を見ながら、ノートに絵や気づきを書く。
エ：作戦・図解型：体育の作戦や総合のアイデアを、ノートに図解する。
オ：音声・表現型：音読をロイロノートに録音し、客観的に聞いて改善する。

ステップ③振り返り

学習を終えたら、次の2つの視点で自分の学びを分析します

- ①「何ができるようになったか？」
- ②「今日の学びの作戦、どうだった？」



低学年 学びのカタログ

五感で「はっけん」！

自分にぴったりの学び方を見つけよう！

国語

音読・スラスラの術

→教科書を声に出して読み、読めたところにシールを貼る

音読レコーディングの術

→音読を録音し、客観的に聞いて「はなまる」な点を探す

ことばハンターの術

→見つけた「習った漢字」をノートに記録する

読書メーターの術

→本の感想を短い言葉で記録し、自分の好みを分析する

算数

おうち数えの術

→家の中にある身近なものの数を正確に数えてメモする

スマイルドリルの術

→自分のレベルに合った問題に挑戦し、力をつける

ブロック図解の術

おはじきや図を使い、計算の様子を描いて考える

算数もんだい作りの術

→自分で問題を作り、家族や友達に出題して解説する

その他

今日のはっけん絵日記

→見つけた「すごいこと」を、絵と言葉でノートに残す

はっけん写真館の術

→育てている植物や虫を撮影し、成長の様子を記録する

ヒミツ調査隊

→好きなものや人について、調べてメモする

ダンス・自撮りチェック

→ダンス動画と自分の動きを録画で見比べ、工夫する

令和8年度 陸別中学校 学校経営方針

- 1 陸別町教育の目指す姿 ～「陸別の子は陸別で育てる」～ 地域とともにある学校づくり～
・家庭は温かく ・学校は楽しく ・地域は明るく

2 学校経営の基本方針

- (1) 学習指導要領、中央教育審議会各種答申、十勝管内教育推進の重点、陸別町教育行政執行方針、陸別町小中一貫教育の推進方針を踏まえ、今年度の本校の重点を設定しその実現を目指す。
- (2) 「子どもたちに必要な資質能力やその育成方法」を地域と共有し、手を携えて教育活動の充実（社会に開かれた教育課程の実現）を図る。
- (3) 子どもたちにとって最大の教育資源である教職員一人一人が指導力を磨き、それを結集した組織体「チーム陸中」が今年度の重点達成を目指す。

3 学校教育目標

「 自立 挑戦 友愛 」

4 目指す学校像

「誰もが通いたい学校、働きたい学校」
～ **楽しい**学 校 生 活 ～

心安らく環境 「自他とともに認め合う関係」（多様性への理解）
「相談できる人の存在」（友人、教職員、SCなど）
「のんびりできる空間」（教室、保健室、図書スペース）

楽しい活動（学習、行事、部活動） 「おどろき」（興味、関心）
「うなずき」（理解、習得）
「かがやき」（主体的な思考、活動）へ

5 今年度の経営の重点

(1) 「陸別の子は陸別で育てる」(保小中連携のさらなる推進)

- ・陸別町小中一貫教育推進委員会による小中一貫教育の推進

(2) 子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

① 新しい時代に必要となる資質・能力をはぐくむ

- ・※1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による授業改善
- ・客観的なデータを基にしたショートスパンでのPDCAサイクルの確立
- ・個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法、支援体制の工夫
- ・※2 SDGs、ESDを核に据えた体験的学習や問題解決的学習の推進

② 豊かな人間性をはぐくむ

- ・「学びに向かう力、人間性」を育成する教育の充実
- ・全校体制による組織的な ※3 発達支持的生徒指導の推進
- ・学校図書館(図書スペース)を活用し、本に親しむ指導の充実

③ 健康でたくましい体をつくる

- ・健康な生活に関心をもち、※4 ヘルスリテラシーを高める指導の充実
- ・新体力テスト結果の活用・分析による体力向上の取組の充実
- ・学校給食、教科(技術家庭科等)と連携した食育の推進

(3) 学びの機会を保障し質を高める環境の確立

① 安心して過ごせる居場所をつくる

- ・チーム担任制(学年担任制)による生徒一人一人に寄り添う指導の充実
- ・不登校生徒への支援と学びの機会の確保
- ・法に基づくいじめの問題の未然防止、積極的な認知、組織的な対応
- ・避難訓練、安全教育等を通じた危機回避の指導の充実
- ・全教職員による組織的なリスクマネジメント、クライシスマネジメントの充実

② 専門性を向上し、働きやすい職場づくり

- ・※5 心理的安全性を確保し、情報共有しやすい職員室の雰囲気づくり
- ・ICTの活用による校務効率化の推進
- ・職員会議、面談、自己評価等によるに服務規律保持の研修及び啓発
- ・多様な研修機会を活用した教員の主体的な学びの促進

(4) 家庭・地域と歩む持続可能な教育の実現

① 家庭や地域と連携して子どもの学びを支える

- ・学習習慣、生活習慣の確立に向けた家庭や地域との連携 (タブレットの活用)
- ・学校便り、学校公式ブログ、各種通信等の活用による家庭、地域との教育活動の共有
- ・学校評価による学校経営状況の公表

- ・※6 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- ・部活動の地域移行に向けた取組の検討

② ふるさと陸別への愛着を育む教育を推進する

- ・※7 「りくべつ学」を推進する教育課程の編成・実施・改善
- ・各種地域施設を活用した歴史・文化・芸術・科学に接する機会の充実

※1 「個別最適な学び」： 生徒が自分の目標や進度に合った形で学んだり、自分の興味関心のあるものを選んで学んだりすること。

「協働的な学び」： 探究的な学習や体験活動などを通じて、生徒同士、あるいは企業や地域の人など、多様な他者と協働しながら学んでいくこと。

※2 SDGs： Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。
国連が定めた持続可能でよりよい世界を目指すために定めた17の目標。
「目標5 ジェンダー平等の実現」、「目標11 住み続けられるまちづくり」など。
ESDは、そのための教育（Education for Sustainable Development）。

※3 発達支持的生徒指導： 全ての生徒を対象に、生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し、個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかける。
日々の教職員の生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業、行事等を通じた個と集団への働きかけを大切にする。

※4 ヘルスリテラシー： 生活の質を維持・向上させて健康的な生活を送るために必要な健康・医療関連情報を取得し、有効に活用する能力。

※5 心理的安全性： 組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対してでも安心して発言できる状態。
①話しやすさ、②助け合い、③挑戦、④新奇歓迎の4つの因子があるとき、心理的安全性が感じられる。

※6 コミュニティ・スクール： 学校運営協議会を設置した学校。

学校運営協議会のメンバーは、校長、教職員、地域住民。

その役割は、①校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること、

②学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べることができる

③教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができる。

地域学校協働活動： 地域住民、保護者、NPO、民間企業等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して行う様々な活動。本校の職場体験学習や各種の講話など。

※7 「りくべつ学」： 陸別小・中学校の一貫した「ふるさと学習」。地域の教育資源「ヒト・モノ・コト」を活用した学習。総合的な学習の時間を中心に、各教科、特別活動、道徳など教科横断的に体験的学習、探求的学習を進める。
これまでの「陸別ふるさと科」の学習内容も「りくべつ学」の中に位置づける。